



マス釣りとは河川清掃で自然の大切さを学ぶ

＝ マス釣り&猪名川浄化運動大会、猪名川漁業協同組合 ＝

GW前半の4月28日、川西市北部の一庫ダム下流の一庫大路次川で「マス釣り & 猪名川浄化運動大会」が行われた（主催：猪名川漁業協同組合<鈴木啓祐代表理事組合長>）。同大会は、釣り仲間や家族など参加者同士の交流を図り、参加者に自然の大切さを学んでもらおうと開催し、今年で14回目。阪神間をはじめ北摂の各地などから家族連れや釣り好きの人ら約100人が参加し、次々にマスを釣り上げ歓声をあげていた。



参加者は、ルール説明を受けた後、参加者は清流に吹き込んだ心地よい春風を体を感じながら、思い思いの形でマス釣りを楽しんでいた。マス釣り終了後には、一庫唐松公園で同漁協組合員らが用意した豚汁などを味わいながら交流を深めた。

大会最後には、参加者全員で手袋をし、火箸とビニール袋を持って周辺の河川のゴミ拾いを行い、さわやかな気持ちで大会を終えた。

場所はダム下流の唐松公園（本部）と一庫大路次川（一庫橋から前川橋の間）で、マス釣りは午前9時半にスタート。正午までの2時間半で、マスの大きさにより勝負を競い合い、上位5人が表彰された。今回の大会のために、同漁協は約100キロ（約500～600匹）のマスを放流した。

釣ったマスの大きさの計測は2カ所で行われ、大物には拍手や歓声が沸き起こっていた。計測されたマスの大きさが上位5人以内の人に、「大きいで賞」が贈られ、それ以外の参加者には、「一庫ダム賞」や「市長賞」、「川西市観光協会会長賞」（抽選で決定）などが贈られた。

同組合の鈴木啓祐さんは「今年は少し参加者が少なかったのが残念ですけど、多い人で50匹も釣った人もいて、皆さん楽しんでもらえたと思います。いい天気、けが人が出なかったのが何よりです」などと話した。